

■定格総荷重表

	16tフック(主巻)	3.2tフック(補巻)
フック質量	140kg	50kg
最大巻掛本数	6本	1本

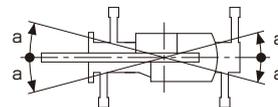
①アウトリガ使用時の注意

1. 定格総荷重は、水平堅土上においてクレーンを水平に設置した状態での値で、ブーム作業時はつり具と主巻フック質量(140kg)を、ジブ作業時はつり具と補巻フック質量(50kg)を含んだ値です。太線より上はクレーンの強度によって定められ、下はクレーンの安定度によって定められています。
2. 作業半径は、ブームのたわみを含んだ実際の値に基づいていますので、ブーム作業時は必ず作業半径を基準にしてください。
3. ジブの定格総荷重は、ブーム長さ23.3m以下と23.3mを超えた場合で異なります。
4. ジブ作業は、ブームの角度を基準にしてください。なお、作業半径は23.3mおよび27.5mブームにジブを装着した場合の計算値であり、実際の作業半径とは異なる場合があります。
5. シングルトップの定格総荷重は、ブームの定格総荷重より90kgを差し引いた値とし、つり具と補巻フック質量(50kg)を含んだ値で、かつ限度は3.2tです。
6. 高速巻き下げは、フックのみを降下するときに使用してください。また、急激なレバー操作は避けてください。
7. 各ブーム長さにおけるフックのワイヤロープ標準巻掛本数は下表のとおりです。  
ただし、この掛数以外で使用する場合は、ロープ1本当り主巻2.9t以下、補巻3.2t以下としてください。

ブーム長さ	6.5m	10.7m	14.9m	19.1m	23.3m	27.5m	ジブ・シングルトップ
巻掛本数	6	6	4	4	4	4	1

8. ジブにおけるワイヤロープ巻掛本数は1本です。
9. 側方域でのつり上げ性能は、アウトリガ張出幅によって異なります。張出幅に応じた性能で作業をしてください。  
また、前方・後方域でのつり上げ性能は「アウトリガ最大張出」の定格総荷重ですが、アウトリガ張出幅によってその前方・後方域の範囲(角度a)が異なります。

X型	張出幅	中間張出(4.8m)	中間張出(4.4m)	中間張出(3.2m)	最小張出(2.7m)
	角度 a°	50	45	20	15
H型	張出幅	中間張出(4.8m)	中間張出(4.4m)	中間張出(3.2m)	最小張出(1.79m)
	角度 a°	45	40	20	5



②アウトリガ不使用

単位:(t)

ブーム長さ	静止時								走行時(1.6km/h以下)															
	6.5m		10.7m		14.9m		19.1m		6.5m		10.7m		14.9m		19.1m									
作業半径	前方	全周	前方	全周	前方	全周	前方	全周	前方	全周	前方	全周	前方	全周	前方	全周								
3.0m	3.7	2.3	3.6	2.3	3.55	2.3	3.7	2.3	2.6	1.6	2.6	1.6	2.6	1.6	2.6	1.6								
3.5m	3.2	1.9	3.1	1.8	3.1	1.8	3.25	2.0	2.3	1.3	2.2	1.2	2.2	1.2	2.3	1.3								
4.0m	2.8	1.6	2.7	1.4	2.7	1.4	2.85	1.6	1.9	1.0	1.9	0.9	1.9	0.9	2.0	1.1								
4.5m	2.55(4.4m)	1.3(4.4m)	2.4	1.1	2.35	1.05	2.5	1.3	1.7(4.4m)	0.9(4.4m)	1.6	0.7	1.6	0.7	1.8	0.9								
5.0m			2.1	0.8	2.05	0.75	2.2	1.1			1.4	0.6	1.4	0.5	1.6	0.7								
5.5m			1.85	0.5	1.8	0.45	2.0	0.85			1.2	0.35	1.2	0.3	1.4	0.6								
6.0m			1.6		1.6		1.75	0.6			1.1		1.1		1.2	0.45								
7.0m			1.25		1.25		1.4				0.8		0.8		1.0									
8.0m			1.0		0.95		1.15				0.6		0.6		0.8									
9.0m					0.7		0.9						0.45		0.6									
10.0m					0.5		0.7						0.3		0.45									
11.0m					0.35		0.55								0.35									
12.0m							0.4																	
13.0m							0.3																	
A(°)	0~82.5		37~82.5		0~82.5		56~82.5		35~82.5		64~82.5		0~82.5		46~82.5		33~82.5		61~82.5		50~82.5		68~82.5	

A:ブーム角度の範囲(無負荷時)

②アウトリガ不使用時の注意

1. 定格総荷重は、水平堅土上においてタイヤのエア圧が規定圧(900kPa[9.00kg/cm<sup>2</sup>])で、かつ完全にサスペンションロックした場合の値で、ブーム作業時はつり具と主巻フック質量(140kg)を含んだ値です。太線より上はクレーンの強度によって定められ、下はクレーンの安定度によって定められています。  
実際の作業では、地盤、作業状態等を考慮して使用してください。
2. 作業半径は、ブームおよびタイヤのたわみを含んだ実際の値に基づいていますので、必ず作業半径を基準にしてください。
3. 各ブーム長さにおけるフックのワイヤロープ標準巻掛本数は下表のとおりです。  
ただし、この掛数以外で使用する場合は、ロープ1本当り主巻2.9t以下、補巻3.2t以下としてください。

ブーム長さ	6.5m	10.7m	14.9m	19.1m	シングルトップ
巻掛本数	4	4	4	4	1

4. 高速巻き下げ作業、ブーム長さが19.1mを超えるブーム作業およびジブの使用はしないでください。
5. 「前方」のクレーン作業は、AMLの「前方位置シンボル」が点灯しているときに行ってください。前方の範囲は、ブームがキャリヤの前方2°以内です。



6. シングルトップの定格総荷重は、ブームの定格総荷重より90kgを差し引いた値とし、つり具と補巻フック質量(50kg)を含んだ値で、かつ限度は3.2tです。
7. つり荷走行は、「駆動モード切換」スイッチを「4WD低速走行」にし、シフトスイッチを1速にして行ってください。
8. つり荷走行は、旋回ブレーキをかけ、荷が振れないように地面近くに保持し、1.6km/h以下で行ってください。特に急ハンドル、急発進、急ブレーキは避けてください。
9. つり荷走行中には、クレーン作業を行わないでください。